

◇社会福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
人間の生物的機能と反応	<p>高齢者や障がい者の自立支援に医学・医療の関与は欠かせない。現代医学、医療がどのように成立してきたかの歴史を学び、現代医学、医療の問題点を社会医学的に検討する。また先進医学を通じて将来の医療の展望について考えてゆきたい。講義とともに、自らの意見を積極的に述べる訓練を行うため、種々の具体的なテーマに沿って自由討論を取り入れてゆきたい。</p>
人間の心理・社会的機能と支援	<p>社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせない。本講義では教養科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学ぶ。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説する。</p>
社会理論と社会システム	<p>本講義は、ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のうち社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係について社会理論の専門用語によって体系的に理解するとともに、社会的現実や実態について科学的手続きによってアプローチができるようになることをめざす。具体的内容として、(1)社会学イントロダクション、(2)人と社会の関係、(3)現代社会の理解、(4)人々の「生活」の理解、(5)社会問題の理解を取り上げる。</p>
演習 I	<p>本演習は、大学ではじめて学ぶ人たちが、(1)学ぶ空間であるキャンパスにできるだけ早く慣れ、(2)大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、(3)4年間の見通しをもって専門教育を受ける準備ができるようになること、また、充実した学生生活を自分自身で設計できるようになることを目的としている。この演習クラスは少人数で構成され、教員-学生間および学生間で交流をはかりながら、個々人の能力を開発し発揮するための場であり、また「学びの共同体」である。大学生としての生活習慣を身につけることができる。</p> <p>学びに必要とされる文献を読む力、ノートテイキング、文章にまとめる基礎力を身につける。</p> <p>将来の社会で必要とされる発表することやコミュニケーションを取ることなどの学士力の基盤を作る。</p>

◇社会福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
演習 I	<p>I 期に引き続き、大学生として学ぶための基礎的な能力を身につけることをねらいとする。社会福祉やソーシャルワークをテーマとする課題に取り組むことを通して、グループディスカッション、レポート作成、プレゼンテーションなどのスキルをさらに向上させる。また、「テーマを設定して、トピックを絞り、情報収集により得られたデータを集約し、整理して表現する」一連の作業の中で、チームワーク力を養い、リーダーシップを発揮するためのスキルを学ぶ。こうした学習を通して、ソーシャルワーカーをめざし福祉を学ぶ者としての自覚を養う。</p>
現代社会と福祉 I	<p>本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。またVHSやDVDなどの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜用い、受講生の知的好奇心を涵養することを目的としている。</p>
現代社会と福祉 II	<p>本講義では福祉国家の理念、理論、形成過程、およびその構造や機能についての理解を深め、社会福祉の直面するさまざまな問題を、資料、データなどに基づいて、受講生が正確かつ総合的な視点から考察できるよう計画されている。またVHS、DVDなどの視覚教材、新聞などからの最新の事例などを適宜用い、受講生の知的好奇心を涵養することを目的としている。</p>
ソーシャルワーク実習指導 I	<p>本科目の目的は二つである。一つめはボランティア活動を通し、現場を知ることである。座学が中心で社会での関わりが限定されたままで実習に出向くと、ソーシャルワークの基本的な要素である、対人関係の構築について学ぶことができないままで終わってしまう可能性があるためである。ボランティア体験を通し社会の中の人と人との関わりを学ぶことが一つめの目的である。二つめには、社会に出るとはどういう意味を持っているのか、社会人として振る舞うとはどのような行動なのかを学ぶことである。これは、学士力として、問題解決能力や分析力の基本ともなる力を身につけることである。</p>

◇社会福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	<p>この科目のねらいと概要は、ソーシャルワークの専門的実践とソーシャルワーク専門職の本質と基盤についての知識を獲得し、理解することである。つまり、本科目は、グローバル社会で変化していく日本の社会的、経済的、政治的状況の中で、コミュニティや人間関係の問題、ニーズ、また困難という幅広い領域での文脈において、支援/援助を必要とする個人、家族、コミュニティを対象にサービスを提供するためのソーシャルワークの基礎的知識と共通かつ全般的な要素をジェネラリスト実践の視点から理解できるように構成されている。ソーシャルワーク実践の入門としての本科目の内容は、国際ソーシャルワーカー連盟、米国、日本によって定義されているソーシャルワーク専門職の使命、目的、価値、倫理である重要な概念に基づいている。</p>
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	<p>この科目のねらいと概要は、ソーシャルワークの専門的実践とソーシャルワーク専門職の本質と基盤についての知識を獲得し、理解することである。つまり、本科目は、グローバル社会で変化していく日本の社会的、経済的、政治的状況の中で、コミュニティや人間関係の問題、ニーズ、また困難という幅広い領域での文脈において、支援/援助を必要とする個人、家族、コミュニティを対象にサービスを提供するためのソーシャルワークの基礎的知識と共通かつ全般的な要素をジェネラリスト実践の視点から理解できるように構成されている。ソーシャルワーク実践の入門としての本科目の内容は、国際ソーシャルワーカー連盟、米国、日本によって定義されているソーシャルワーク専門職の使命、目的、価値、倫理である重要な概念に基づいている。</p>
演習Ⅱ	<p>演習Ⅱでは、コミュニティ・アワーの経験を通じて、自らのコミュニティの特質を学ぶことになる。そして、①ソーシャルワーカーとして何を知っておかねばならないのか(知識の面)、②どのような方法で問題解決や変化を生み出しいくのか(技術の面)、③どのようなコミュニティが望ましいのか、望ましくないのか(価値の面)、を考えられるようになる。コミュニティ・アワーは「地域を教科書として」学ぶことにより、学生はジェネラリスト・ソーシャルワーカーとなる基礎的知識と実践的技術を獲得する。加古川市、宍粟市、稲美町に調査に出て社会福祉実践のある側面に関する直接的な知識と情報を得る。小都市・農村的地域において、社会生活を支える資産にはどのようなものがあるか、そこで暮らす人々の福祉ニーズはどのようなものか、また福祉ニーズにコミュニティはどのように対応しようとしているのか、など。</p>

◇社会福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
演習Ⅱ	<p>I 期に引き続き、コミュニティ・アワーを行う。コミュニティにおける課題を現地で把握する。グループでの調査、ディスカッション、レポート作成、報告会などを行う。一連の演習の作業の中で、チームワークを養い、リーダーシップを発揮する術を学ぶ。一連の作業をチームで行うという学習を通し、ソーシャルワーカーとして、あるいは福祉を学ぶ者としての自覚を促す。</p>
社会保障論Ⅰ	<p>社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて解説し、制度の体系と概要について理解する。</p>
社会保障論Ⅱ	<p>少子高齢化や生活の都市化・核家族化、所得格差の拡大、福祉サービス供給や財源調達、管理運営に関する公私関係等、現代社会における社会保障制度の諸課題について教授するとともに、諸外国における社会保障制度の発達過程についても理解を深める。</p>
地域福祉の理論と方法Ⅰ	<p>福祉国家から福祉社会への移行の中で、地域で福祉を担う必要があり、地域におけるソーシャルワークの重要性が高まっている。その実践には地域にある様々な資源(人や制度、施設)とソーシャルキャピタルを結び、人々の自立の支援が必要となる。授業では、地域や自治体の定義やソーシャルキャピタルについての概念を示し、地域福祉に不可欠なさまざまな制度や組織の役割、地域福祉計画の役割などを解説し、さらに福祉社会における地域福祉の意義を歴史的な経緯を含めて説明する。</p>
ソーシャルワークの理論と実践Ⅰ	<p>対人援助の在り方について、面接の進め方、専門職としての価値、態度の再確認と、それを実践に移していける援助技術の展開の仕方について、講義と事例から学びを進める。この授業ではとくに、社会福祉援助の実施における効果を高めるための技法や面接でのコミュニケーションスキルを学ぶ。利用者支援では様々な知見から有効性を指摘されたものを目的を定め、自らの援助の効果を高めるために、積極的に活用していくことが重要であることを確認していく。</p>

◇社会福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱ</p>	<p>社会福祉教育は実践的な学問であり、福祉の現場と密接に関連する福祉の学習が求められている。福祉のサービスを利用する人々の実際の姿を知り、福祉を実践する機関・施設・従事者の実際の実践活動を学ぶ実習教育を、理論的な学習と並ぶ車の両輪として位置づける授業である。社会福祉施設・機関で5日間実習し、実際の福祉現場の業務や援助実践を体験し、社会での就労姿勢を学ぶ。さらに、ソーシャルワークの基礎的実習体験を通して、対象となる問題の捉え方、援助実践の方法・技術、さまざまな制度に関する体系的知識や施設分析を学習する他、授業で学んだ知識と理論の意味を理解し、体験に基づき利用者への理解を深めるとともに、自分の性格やソーシャルワークになるために求められる資質を培うために、自己覚知を導く。</p>